



第四十三回習志野第九演奏会を終えて
NPO法人習志野第九合唱団
理事長 川谷 聡

昭和五十三年末、習志野文化ホールのこけら落とし公演として習志野第九演奏会が開催され、これに出演する合唱団として結成されたのが習志野第九合唱団です。当初演奏会主催の中心は市でしたが、第三十回からNPO法人となった習志野第九合唱団が演奏会を主催し、さらに第三十八回からは習志野市芸術文化協会と習志野文化ホールが共催者として加わり、名実ともに「音楽のまち習志野」を象徴する演奏会に育ってきました。



ところが新型コロナウイルスの感染拡大により、令和二年度はこの歴史ある演奏会の開催を断念せざるを得なくなりました。

令和三年度は何とか演奏会を開催しようと、六月に過去四年間の在籍団員に参加の意向を問い合わせたところ、百八十名を超える団員から出演の希望がありました。しかし「クラシック音楽公演における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿ってマスク着用で歌うとしても、人と人との距離の確保の関係で全員は出演できず、やむなく抽選で出演者を決定しました。その後も緊急事態宣言が続いていたため、八月末の結団式と九月の練習は中止とし、十月からの練習は密を避けるためパート別で

開始するなど慎重に準備を進めました。

過去の演奏会では三百名を超える大合唱団が、本番は百余名と三分の一になりましたが、コロナ禍や抽選漏れで演奏会に出たくても出られない合唱団員の思いも一緒に歌い、過去の経験のない素晴らしい響きと完成度で、感動的な演奏会となりました。

今年の年末もコロナ禍の影響で習志野第九演奏会は再び大きな制限を受けるかもしれませんが、できる範囲で精一杯の活動を続けたいと思います。

開始するなど慎重に準備を進めました。

過去の演奏会では三百名を超える大合唱団が、本番は百余名と三分の一になりましたが、コロナ禍や抽選漏れで演奏会に出たくても出られない合唱団員の思いも一緒に歌い、過去の経験のない素晴らしい響きと完成度で、感動的な演奏会となりました。

今年の年末もコロナ禍の影響で習志野第九演奏会は再び大きな制限を受けるかもしれませんが、できる範囲で精一杯の活動を続けたいと思います。

春の芸術祭に和紙ちぎり絵のコーナーをいただいてから五年目を迎えますが、希望の虹は、昨年初めて参加させていただけました。

自分達の作品が、他団体の芸術作品と共に展示されている事に大きな喜びを感じたようございます。そしてこの事がきっかけで9月開催の習志野市美術展覧会(市展)にも特別展示していただく事になったのでございます。

障害をもった仲間たちの作品を受け入れて下さった芸術文化協会の広いお心に感謝させていただきます。

おかげ様で希望の虹の仲間たちも一層楽しく励めるようになりました。

一ヶ月うち土曜日の教時間みの和紙ちぎり絵教室です。一つの作品をつくるのに少しずつ少しずつちぎっては、はる事をくり返し約一年かかります。

大きなキャンバスに最初はこの部分をはっているのかわからない状態でも徐々に形が見えてくると誰ともなく歌を口ずさみ勿論今の時期マスク越しですが二人三人やがてはみんなが歌い乍らの作業に私も一緒に引き込まれていくのです。

一人一人個性を持っていて、素直でピュアな仲間たちに、私は心がふかふかと耕されていくように感じられます。そして、いろいろな事を学ばれます。

芸術祭への参加という新たな目的も出来ました。

彼らでないと出来ない表現にこれからは温かいまなざしを、どうぞよろしくお願い申し上げます。



各団体活動状況

美術会活動「市展」 習志野市美術会 細谷 雅男

習志野市美術会の発足は平成九年五月十九日です。現在の会員数は百七十九名です。

構成は「日本画」「洋画」「彫刻」「工芸」「書」「写真」の六部門です。近々は会員の高齢化で入会者よりも退会者が多いのが現状です。

美術会の主な活動は習志野市美術展覧会「市展」を年一回九月に開催する事で、令和三年度は、第二十八回展を開催いたしました。会員と公募で、合わせて三百作品の出展でした。出展数にも減少が見られ、従来までは三期で開催していましたが、今年からは、二期の開催に致しました。

コロナの影響で、例年、銀座アスターで華々しく行われていた授賞式も、社会教育課の協力を得て市庁舎三階の会議室に規模を縮小して開催いたしました。残念ながら、受賞者、ご来賓以外の出席は叶いませんでしたが、明るく広い会場で、受賞者には好評でした。

従来は授賞式後に懇親会を

開催していましたが、本年は中止と致しました。

開催中の会場では、ご観覧の方から「市民の方が常に自由に鑑賞できる場所があるといいですね。習志野市でも常設展示場が欲しいです。」との言葉が聞かれました。美術会としても市立の展示スペースが有れば、会員がもっと自由に展示会の開催が出来ます。

市展以外の活動では、各部門での個展や合同展の開催や、千葉県や近隣展示会への出展などで、技術の向上を図っています。

また、各部門それぞれに指導者の先生方が絵画、彫刻、写真、書等の作品を市役所をはじめ、公共施設に寄贈し、市民の皆様にも作品の素晴らしさをお届けしています。

今後の美術会の課題としては、市展への出展作品、会員の減少を食い止めるために、若年層への参加促進を図る事を検討していかねばと考える必要があります。

令和四年度の「市展」は令和四年九月十五日より開催予定です。六月一日より出展募集が開始されますので、ご興味のある方はぜひご出展ください。



習志野文化ホールへ感謝を込めて 津田沼混声合唱団 飯岡 直樹

津田沼混声合唱団は、昭和五十二年十二月に創立指揮者故青木八郎先生により設立された習志野市を本拠地とする混声合唱団です。昭和五十五年第一回定期演奏会を習志野文化ホールで開催以来、昨年十月の第四十一回までほぼ毎年習志野文化ホールと共に歩んで参りました。我が合唱団の響きは習志野文化ホールによって育まれて来ている！と言っても過言ではありません。毎年リハーサルであるステージに立つと「あつ、また帰って来れた！この響きを皆で共有して音楽する為に、一年間頑張った！練習して来たのだ！」と、心の底から喜びがふつふつと湧き上がってきます。文化ホールの響きは、合唱団員全員の心の奥深くにDNAの様に着実に浸み込んでおります。ほかの音楽団体の皆さんも同じ感覚だと思えます。

その我ががホームグラウンドである習志野文化ホールが、取り壊される！と耳にした時は信じられませんでした。何故、「音楽の街、習志野」のランドマークである文化ホールが、我々市民団体だけではなく、全国レベルで活躍している小中高等学校のスクールオケ、ブラ



スパンド・合唱部の子供たちにとっても心の拠りどころでありシンボルである文化ホールが、消えてしまう！残念でなりません！そして、感謝の気持ちが溢れ出てきます。

我が合唱団が、定期演奏会で習志野文化ホールと共に響きを奏でられるのも今年が最後かもしれない。四十年間、あの素晴らしい響きでどれほど我々を励まし、元気づけ、喜びを与えてくれたか計り知れません！令和四年十月三十日(日)の定期演奏会では、合唱団一同感謝の気持ちを込めて、渾身の音楽を文化ホールと一緒に響かせたいと思います。

「今まで本当に、ありがとう！習志野文化ホール、永久に！」